

要約（日本語仮訳）

To our friends and partners fighting against COVID-19 in developing countries

本紙の背景

COVID-19 に対する各国の現状や取り組みについて、国際機関や各国政府要人など識者の声等も含め、JICA の組織や人材とのネットワークを活用して幅広く情報収集を行った。新型コロナウイルス禍に立ち向かう途上国に向けて、収集した情報を基にした日本と世界の現状の概観、COVID-19 による死亡の関連要因に関する国際比較を交えた考察と JICA のコミットメントを緊急発信として取りまとめたものである。

世界の状況

COVID-19 は多くの予想を覆すスピードで広まり、未だ勢いは衰えていない。経済的に豊かな国々の大都市部でも猛威を振るい、医療崩壊を招き、さらに人々の暮らしや経済に対して近年にない被害をもたらしている。経済的に豊かな国々は、長年にわたり、多額の投資をして医療システムの強化に努めてきたが、今般の脅威によって、多くの国々が甚大な影響を被った。こうした国々にとって、**COVID-19 は現代社会の在り方に根本的な疑問を投げかけている**。利潤や効率性を追求する経済活動など、現代社会の在り方を抜本的に見直すべきであるという議論がますます盛んになりつつある。

COVID-19 に直面したすべての国は、次の**三つの局面の危機**への対応を迫られている。第一は、COVID-19 がもたらす直接的な健康危機である。第二は、これによって影響を受ける保健システム全般の危機である。第三に、政治、経済、社会、そして文化の領域にまで至る保健分野を超えた危機である。こうした局面に対し、**低中所得国は**、必ずしも保健システムが十分ではなくさまざまな危機に対して脆弱だと考えられてきたが、**オーナーシップを発揮し、専門家の助言に耳を傾け、過去の教訓や他国の事例を参考にし**、創意工夫を凝らして辛うじて踏みとどまろうとしている。しかし、同時に、経済社会活動に厳しい制限を加えたことにより、保健医療サービスが停滞し、国民生活や経済が大きな打撃を受けている。これらを踏まえ、**「国民の自発的な行動」を受け入れあるいは促し、「科学の力」を適切に活用できる政府の強靱で柔軟な体制**が極めて重要であろう。

国際比較からみた日本

人口百万人当たりの死亡者数でみると、日本は低く抑えられている。日本政府は、人々の行動様式に関しては、自粛という形で対応が呼びかけた。また、死亡者数を抑えることを目標とし、新型コロナウイルスの特性を踏まえ、集団感染の発生状況を特定し濃厚接触者の追跡と検査を行い感染拡大を予防する「クラスター対策」という手法をとった。諸外国との比較検討から、例えば、**衛生や生活習慣への国民の高い意識、低い肥満率、感染症の脅威に対する強靱な保健システム**など、健康危機への対応に関して独特な特徴が浮かび上がってきた。これを裏打ちするものとして、**①行政・保健所を中心とした公衆衛生機能、②高度な医療を可能にする臨床医学、③保健医療サービスへのアクセスを担保する健康保険制度**、があるかもしれない。高齢化、都市化なども関連要因の可能性があると考えて、それらの相関も考察した。今後、これらの論点について、更に考察・分析を深め、その成果を世界に発信し、提供していくこととしたい。

世界の対応・取組み

日本を含む高所得国や国際機関はすでに低中所得国への支援を表明しているが、資金ギャップを短時間で解消することは極めて難しいであろう。ワクチンや治療薬の速やかな開発と製造に世界が一致団結して全力を挙げるべきであることは論を俟たないが、すべての人に対して確実に届けることが重要である。同時に、個別の疾病対策にはおのずと限界があることを認識したうえで、**保健システムの強化を中心とした包括的な対策を世界が協調して取り組む**ことが急務となっている。

JICA のコミットメント

上記の世界の状況や対応を踏まえ、COVID-19 は健康を中心とした社会の新たな見方や現代社会や世界秩序の在り方に対して警鐘を鳴らしていると考えられる。この警鐘に対して謙虚に耳を傾け、パンデミックを乗り越えられたならば、私たちは、その経験を基に現代社会の課題に立ち向かう「新しい世界」に向けて貴重な一歩を踏み出せるかもしれない。国民を守り、あるいは国民の自発的な行動を引き出す国家の在り方、都市の在り方、働き方、学び方、コミュニケーションの在り方など、「新しい世界」は今よりよいものとなるかもしれない。

今、この危機の最中であって、**それぞれの国がそれぞれのかたちで発揮しているオーナーシップ**に対し、JICA は敬意を表す。多くの低中所得国の政府と自発的な国民が、厳しい状況の中で創意工夫を凝らして協力し合い、事態に対処すべく素晴らしいオーナーシップを発揮している。

私たちは、この危機を奇貨として途上国の喫緊のニーズに応えるため、今は多くの JICA 関係者が国内外での移動に制約を受けているが、パワーアップする。加えて、「**世界共通の危機意識を礎に**」という認識のもとで、私たちは相互の連帯を更に強め、これからの「新しい世界」を共に創っていくことができるかもしれない。したがって、JICA は、次の三つのコミットメントを表明し、低中所得国とともに、そして、世界中のパートナーとともに、歩んでいきたい。

- JICA は、途上国の**喫緊のニーズに応える**ために、工夫を凝らし、最善を尽くす。その際、JICA が長年の協力を通じて培ってきた世界各地の拠点である人財や組織とのネットワークや新しい時代に急速に拡大してきている新しいネットワークを最大限に活用する。
- JICA は、世界中で**強靱で柔軟な保健システムを構築してユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を実現する**ために、科学的知見や経験値を最大限に生かし、これまで以上に尽力する。その実現にあたり、感染症対策に加え、予防や健康増進の重要性を改めて認識している。
- JICA は、「**人間の安全保障**」と「**信頼で世界をつなぐ**」の JICA のビジョンの実現に向けて、信頼と協働を基調とする**持続可能な「新しい世界」を構築すること**にまい進する。